

「歩く」

徒歩者を表すPedestrianという英単語の語源が「ありきたり」を意味するように、・・・徒歩にそれほど光が当てられてこなかった(土井2015)。

人文社会学の研究領域において歩く行為は、これまであまり焦点が当てられてこなかった。(レベッカ2015)

歩く観光



日常的な実践を再価値化すること
(ありきたり)

地域に根ざした「歩く観光」の発展に向けた 戦略の策定

北海道大学
発表者：周・岩本

発表の流れ

- 1、対象地の設定と概要
- 2、先行研究と現状分析
- 3、地域課題
- 4、「歩く観光」に関する日本や海外の事例
- 5、課題克服に向けた提案
- 6、まとめ



発表者：周・岩本

中標津町の概要と範囲

■位置: 北海道の東部、根室管内の中部

■町域: 東西約42km、南北約27km

■面積: 68487平方キロメートル

■気候: 内陸性の気候

■気温: 夏の平均気温は20℃前後

冬の平均気温はマイナス10℃前後

■人口: 23493人(男性11519人 女性11974人)

平成22年まで人口は増加

横ばい・昨年から少し減少

■地域の基幹産業

第一次産業 ⇒ 農業・・・約1500人

第二次産業 ⇒ 建築・製造業・・・約2400人

大三次産業 ⇒ 商業・・・約2300人

(小売、卸売)

■格子状防風林

大きさ・・・15000ha

中標津町・別海町・標津町・標茶町の4町



GoogleMapより



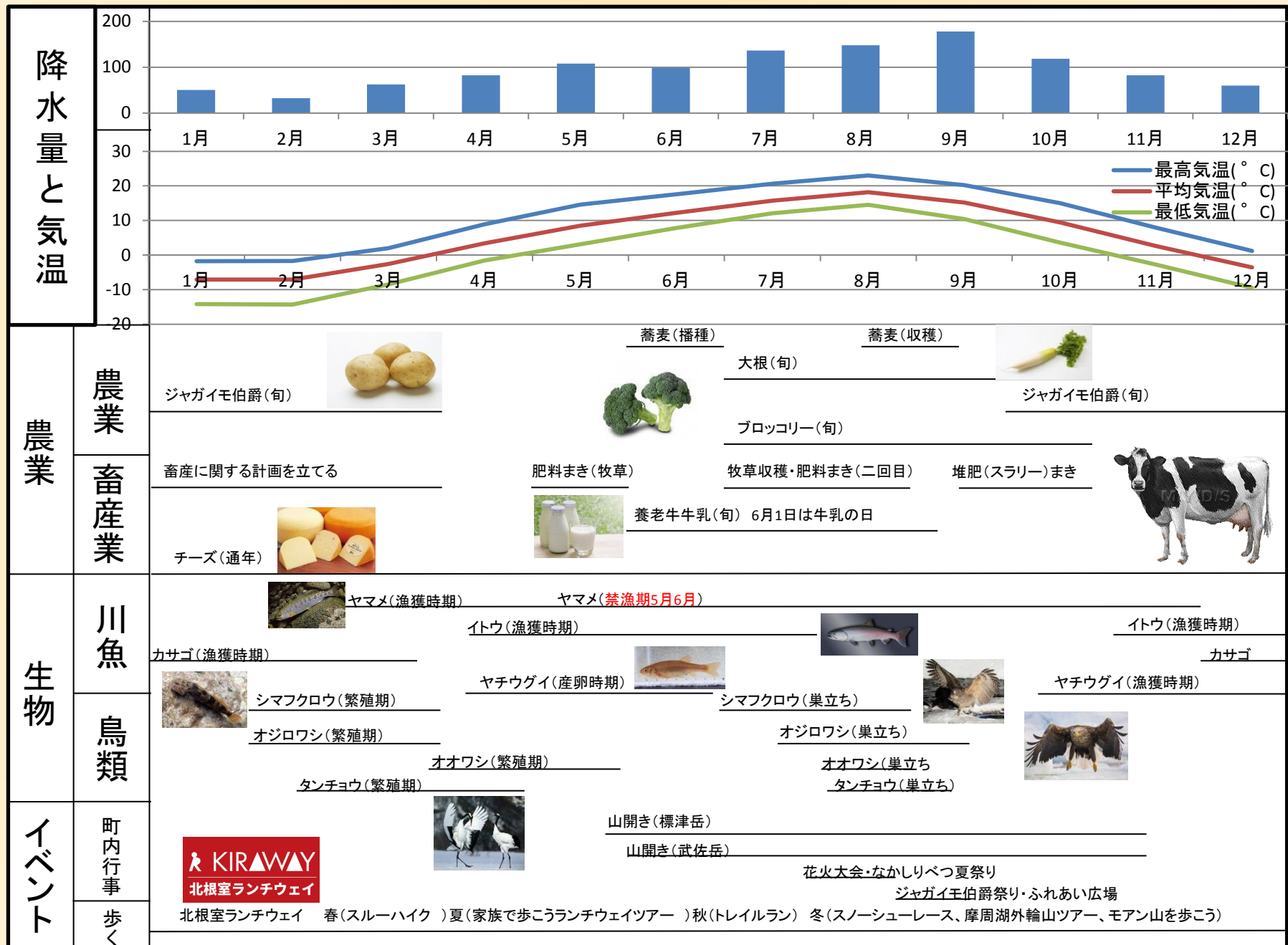
中標津における歩く観光の概要

北根室の広大な牧場地帯を通る全長**71.4km**のロングトレイルで、中標津の雄大な自然景観だけではなく、酪農家の牧場を近距離で楽しむことができる

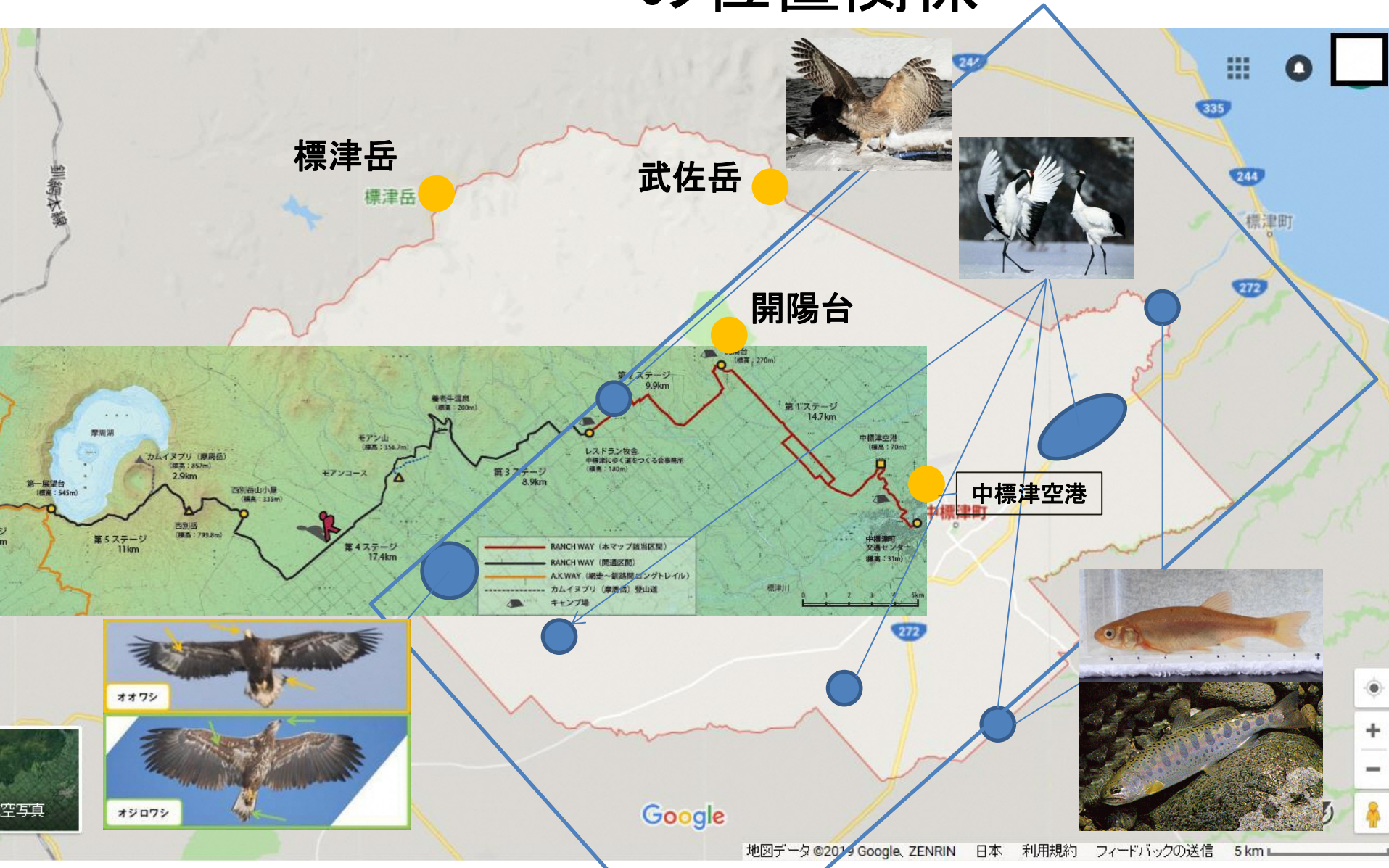
KIRAWAYの創始者である佐伯さんが2005年からコースの整備を始めた。約6年もの年月をかけ、現在のルートが整備され、現在も佐伯さんを中心に数名のメンバーにより、コースの整備と維持をしている



農と道のフェノロジーカレンダー



地域資源と北根室ランチウェイ の位置関係



2年間の調査蓄積と現状

- ① 酪農家への負担を減らすために、北根室ランチウェイの既存コースのルート変更、ルール徹底、ガイドツアーの導入
⇒農場を通らないコースへ変更した
- ② 町内の観光振興のための
組織体制の再構築
⇒新たな方策の検討・・・様々な議論も、、、

公共財化するランチウェイ

関係主体が増えるに従って
様々な社会問題も巻き込みながら
ランチウェイが「**公共財**」化してくる

利用者数の増加

創始者と
サポーター

酪農家

植物

町役場

私有地

観光協会

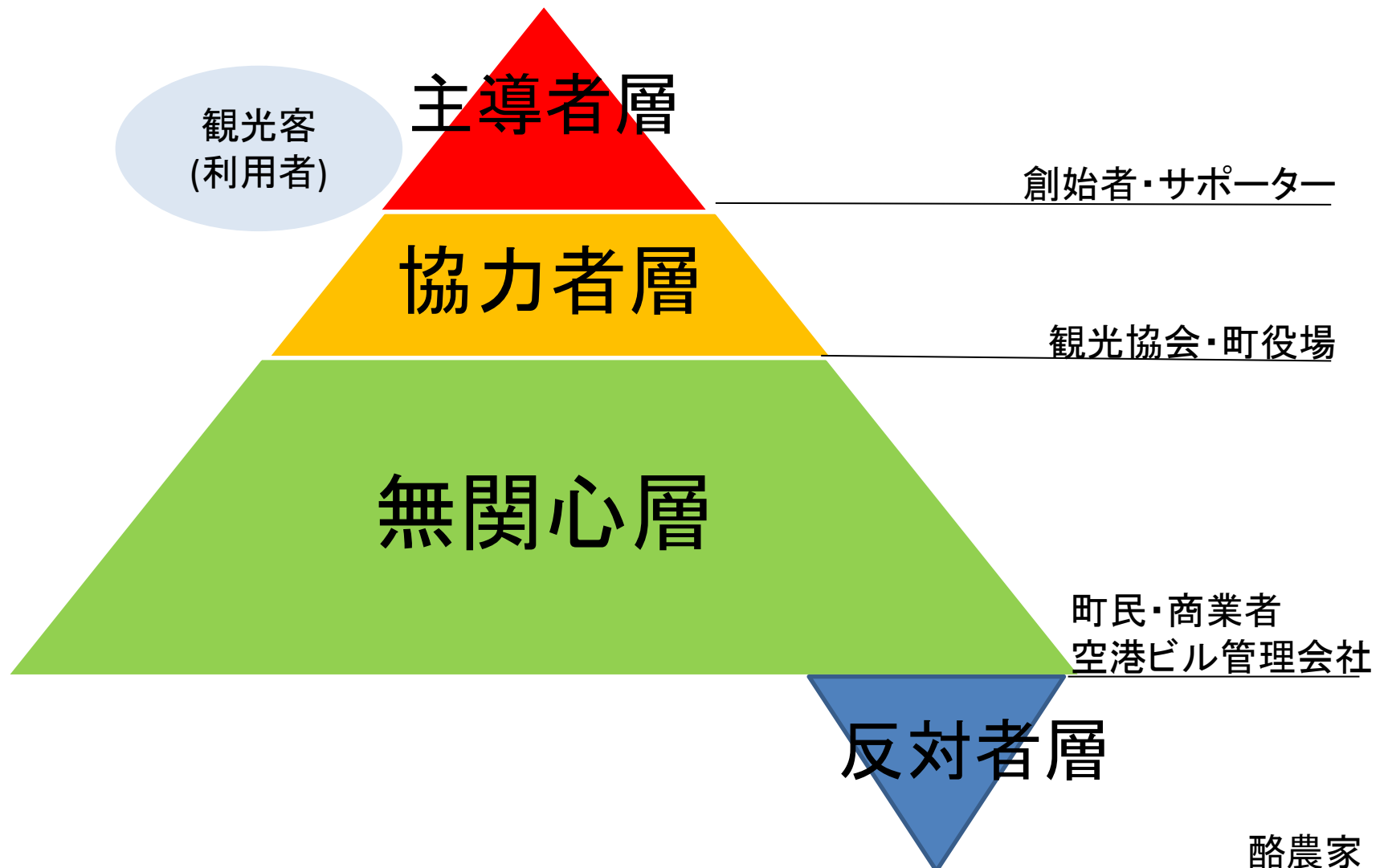
シマフクロウ

公有地

国有林

企業

主体の階層化



顕在化する地域課題

【ランチウェイに関わる主体】

【ランチウェイの管理主体】

創始者と
サポーター

酪農家

不満

ランチウェイの
管理運営組織の不確定

管理依頼

地域の基幹産業への
悪影響の懸念

観光協会

町役場

利用し

観光客
(利用者)

情報共有不足

地域からの
認知度の低さ

【潜在的主体】

ビジネスチャンス

空港ビル管理
会社

商業者

町民

関心

課題

- ① 「公共財」化している北根室ランチウェイをどのように管理・運営するか。
- ② 反対者層や無関心層への理解や認知度をどのように上げていくか。

歩く観光まちづくりを行う事例

事例：歩く人を歓迎できる地域づくり

1、英国 ウィンチコム地域

事例：地域の利害関係を親和的にした道づくり

2、熊本県 美里町

事例：歩く人を歓迎できる地域づくり

1、英国 ウィンチコム地域

フットパスの歴史

移住居への移動や巡礼、交易の交通網として発達。

近代化で、様々な交通手段が出現していくなかで、1940年代に規定された「Right of Way(歩く権利)」によって、フットパスは永久に保存され、地図に記載されるようになった。







地域における道の管理体制



(図 I) Right of Wayにおける管理体制 (「英国Cotswold地域におけるRight of WayとNational Trailの管理・運営についての研究論文」から引用)

歩く人を歓迎する街 ～Walkers are Welcome town～



現在、英国における歩くことを目的とした活動の経済効果は年間82億ポンド(約1兆)という調査結果がある。

そのような経済効果だけでなく、交流もベースに置いた観光まちづくりを住民主導で行っていく仕組みがWalkers are Welcome townである。

Natural England (2011)『Monitor of Engagement with the Natural Environment Survey』
〈<http://publications.naturalengland.org.uk/publication/4646400?category=47018>〉,
(2018/5/17 閲覧)

Walkers are Welcome town (WaW) の取り組み

マーク





早く通ってね…

「公共財」としてのフットパスを観光
に活用し、地域と観光客をマークや
コースサインの**仕組み**で繋ぐ。

事例：地域の利害関係を考慮した道づくり

2、熊本県 美里町

フットパスとは？

地域にある「ありのまま」の資源を活かし、地域を住民主体で維持管理し、創っていく手段





地域主役のまちづくりの工夫

【運営主体が行う取り組み】

■コースを整備して終わりではない

地域の人とフットパスコースを歩くことが「スタート」

地域の人に教えてもらいながら道を引くことで当事者意識を醸造させる意図がある

■ありのままの維持は地域の人（主に農業従事者）

サポートの継続

マップの販売・イベントの開催・ガイドの手配
受入体制の確立・研修会等の開催

■良好な関係の維持

地域の理解が大切。

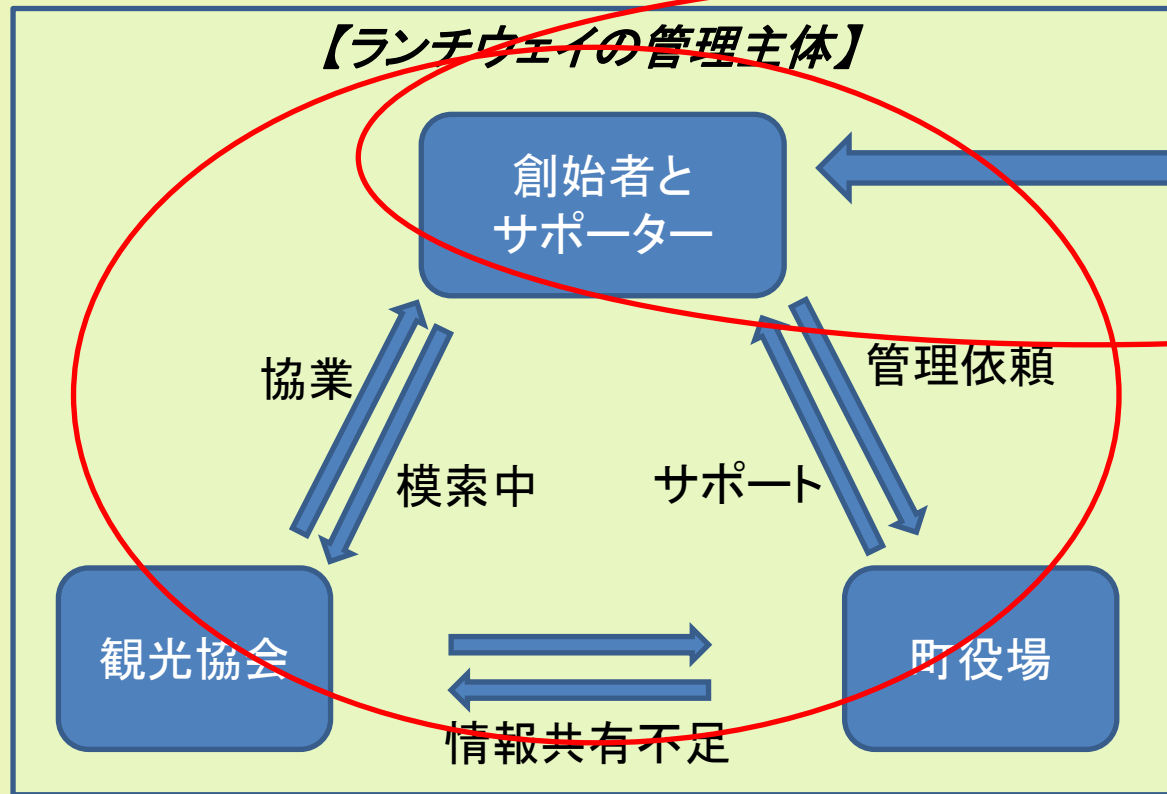
地元にも外部者にも「笑顔と声掛け」の徹底。

無関心層や反対者層を「歩く観光」に
動員させることで、交流を
観光の価値にしている。

課題克服への提案

【ランチウェイに関わる主体】

【ランチウェイの管理主体】



不満

酪農家

疫病の心配

利用したい

観光客
(利用者)

【潜在的主体】

ビジネスチャンス

無関心

無関心

空港ビル管理
会社

商業者

町民



KIRAWAY
北根室ランチウェイ



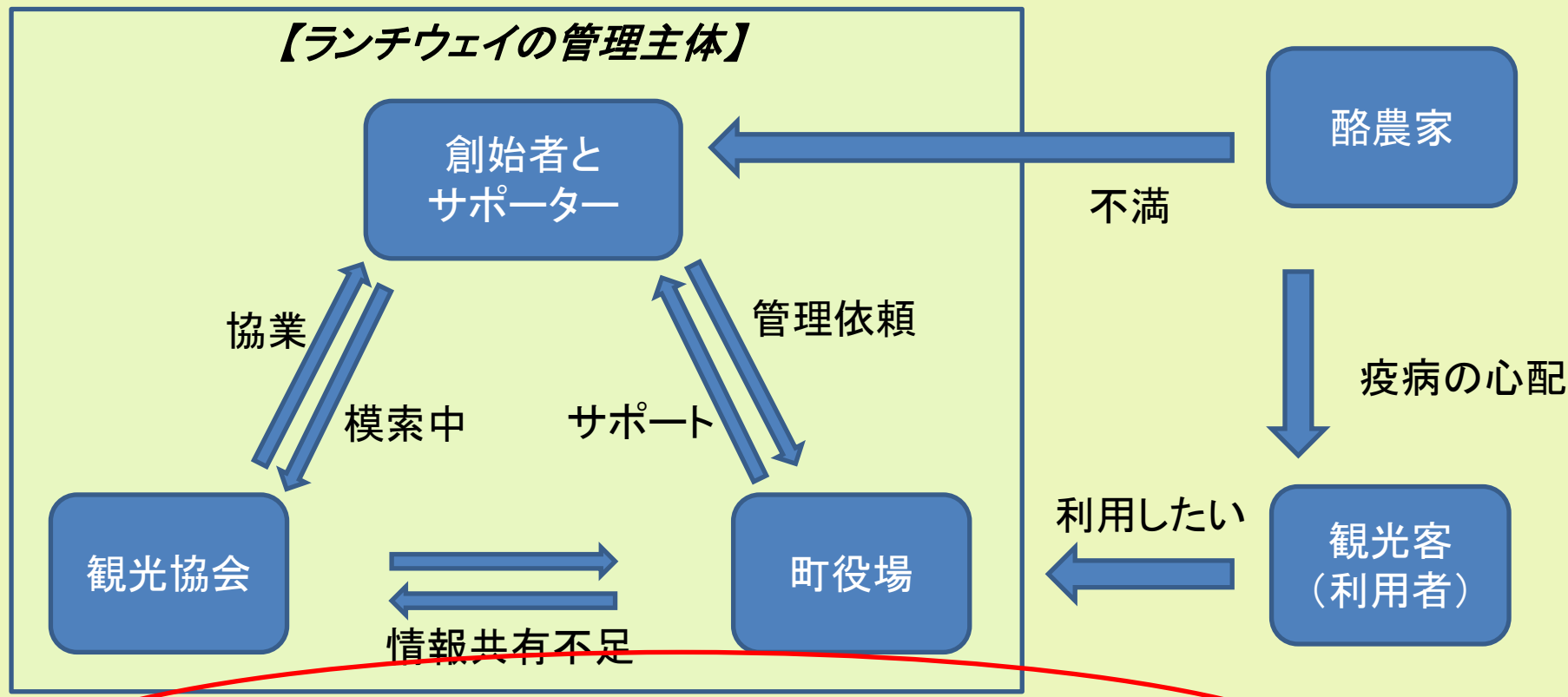
酪農家へのメリットを考える ＝ 北根室ランチウェイに関心を持つようになる

- ・ 酪農家との連携
運営主体への参画を促していくこと
ステッカー（標識）の設定、トレッキングルート
の選定、観光客と酪農家と交流する場を作る
（農家とのTea Time）
- ・ 草刈り機でランチウェイツアー
ランチウェイの維持管理を観光客も楽しみながら行うこと
で「観光客＝危険」の構造を打破

課題克服への提案

【ランチウェイに関わる主体】

【ランチウェイの管理主体】



【潜在的主体】

ビジネスチャンス

無関心

無関心

空港ビル管理
会社

商業者

町民



 **KIRAWAY**
北根室ランチウェイ



- **回遊ルート作り**
牧場ルート以外町全体散策ルートの設定
町内レストラン、おみやげショップ
(例：牛宿USIYADO、シレットコドーナツ) などの地元産業
と連携し、地域経済効果を目指し町民の関心を高める
- **周辺地域のフットパスや町歩きなどの歩く観光との連携**
歩く観光を根室全体で盛り上げていく



まとめ

私たちが伝えたいこと

歩くことはとてもあたりまえで、

日常的な行為であります、

普段見慣れた日常に「価値」を見出していくこと

それが歩く観光がもつ最大の力だと思います。

**歩くことをデザインすることは
明日からの一歩を豊かにする**